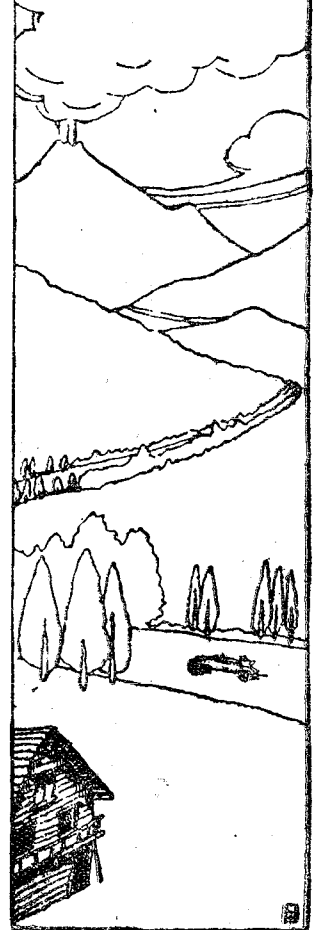


論 說

村 の 道



農學博士 小野武夫

—

村の住心地を良くするために施すべき事の數々は餘りに多くして、擧ぐるに違ない程であるが、道路を良くする事が村の居心地を進むることに効果のあるのは、今更云ふ迄も無い。

村の道は之を大別して内村道と外村道とに分けることが出来る。外村道とは一の村から隣村又は附近の國道や縣道に結びつけられてある道であつて、其の村の人が他地方に出づるために設けられ

てあるものであると共に、他村他地方の人が其の村に入り来る時の道である。外村道は其の村の對外的交渉に大なる關係があるが、内村道は村の人の内部生活に重要な位置を占むるものである。而して茲に私が語らんとする處は専ら村の人の内部生活に密接の關係を有する内村道であつて、外村道のことは姑く觸れないことにする。

二

村の道を作るに際して考へて見ねばならぬことは、道路の用途に依つて其の作り方を違へねばならぬことである。朝から晩まで人閒や牛馬や自轉車やらが雜然と通行する村の道路にも之が向き向きの用途に隨つて各特色がなければならぬ。いま村の道路を用途の上から試に區分すれば第一に經濟道路、第二に教育道路、第三に信仰道路、第四が娛樂道路となる。

經濟道路と云ふのは村の或る道が主として經濟的方面に使用せられて居る場合を指すのである。例へば各農家から其の圃場に通し、又は圃場と圃場とを連絡するために設けられた農用道路は別に又作道とも云はれ、農家の經濟生活上至重の地位を占むるものである。村の人が此作道を往つては田畑を耕し、歸つては家に寝ぬることが農業生活の大部を占めて居る。次に村に於ける今一つの經濟道路は林道である。山間部の農村に在つては或は薪材の切り出し、秣草の刈り取り、炭焼き又は材木伐採等のために始終山村に往復する場合が可なりに多い。斯る村落に於ては林道たる山道が他の一般農村に於ける作道と等しく農家の經濟生活に多大の關係を持つことになる。

三

教育道路と云つても特に村の人を教育するために道を作ることはあるまいが、村の兒童が小學校に通ふために朝夕最も多く通行する道路は之を教育的道路として適當の設備をなす必要があらう、又村には神社がある、寺院がある、之等の神社寺院に通ずる道路は村人の信仰生活に尠からざる關係を有するものであるから、村人の信仰を善導するやうに其の道の設備をする必要があらう、更に又娛樂道路としては村人が主として娛樂のために一定の場所に集るために通ずる通が數へらるゝ例へば村内に於ける少年團又は小高き丘の上の見晴し臺等に通ずる道路は之を享樂のための道路として夫れゝの施設をなすことが要求せらるゝのである。

四

日本の村の百姓は平生主として農業に従ひ、其の傍ら林業を副業として居る處から、經濟道路としての作道や林道が重要視せられ、又村の内に學校があり、神社があり、佛閣があり、娛樂場のある處から教育道路や、信仰道路や、娛樂道路が生ずる次第であるが、斯く其の用途を異にする道路は之を如何に工夫して設備せねばならぬか、先づ第一に村の經濟道路たる作道や、林道の作り方を考へて見るに、これゝ農家經濟生活のために必要なる道路であれば此種の道路は唯人馬の歩行が自由であれば足り、出來るならば荷車が摺れ違ひに通ること出來る幅員があれば更に結構であるが、實際日本の農村

の作道や、林道は甚だ粗末である。平坦地農村の道路は末だ佳いとしても、山間部の作道や林道と來ては勾配の急なる上に迂餘曲折して居るからそれを年中往復する百姓達の苦勞は並大抵のことでは無い、私は常にかう思つて居る。東京、大阪、京都を始め所謂六大都市とか十二都市とか云ふて、都會人のためにやれ環狀線じや、放射線じやと云ふて、大道路を作つてやることを悪いとは云はないが、實際日本の國民經濟の根源を養ふて居る、田舎の村の百姓達のために、せめて牛馬を樂に牽ひて通る位の設備をしてやりたいものだ。天秤棒や、脊負板で牛糞人糞を山田や、遠い野良の端に運ぶ百姓の苦勞を緩和するものは、より良き作道であり、幅廣き林道であらねばならぬ。

五

惜しくも一兩年中には取拂はれて、加賀百萬石の殿様の邸宅にならんとしつゝある、現東京帝國大學農學部市外駒場に一度足を曳いたことのある人は、必ず氣附くことであるが、大學の正門を入ると直ぐ其の兩側には、日本全國の樹木を色替い、品替い植えてあつて、其の傍には其の樹の名前と植物學上の科目までも、チャンと記されてある。大學と小學とを一緒に取扱へと云ふのでは無いが、村の可愛い自分達の子供に生きた植物の智識を與へたいならば、朝夕兒童の通過する道路の兩側に成る可く多くの種類の草木を植え、それに一々名前を書いてやるやうにしたならば、軟い子供の頭にも植物の智識が何時の間にか堅く根を張ることであらう。

此の外教育道路たる小學兒童の往復道を一層教育的ならしむる爲には如何はしい飲食店や、駄菓

子屋を置くことを避け、子供が毎日其の家を出て學校に着する迄、其の通り道を清淨にし、兩側の樹木が何事かを教ふるやうに仕向くることは、空虚なる百の説法にも増して効驗があらう。

六

人が神靈を信じ、佛身を念するのは必ずしも神靈や佛身其のものばかりに歸依する爲ではない、其の神靈佛身を覆ふてゐる神々しき社殿や、奥まりたる堂宇も亦養人を威服し、信仰せしむるのである。言葉をもつと押し擴めて言へば、神社佛閣の建立せられたる其の神域の幽邃さや境内の閑寂なるうちが神靈や佛身にも増して人の心を引き附くるのである、此意味に於て村の内にある神社や佛閣に通する道路の兩側には、成るべく多くの松杉等の常緑樹を植えて樹蔭を作り、其の下から神秘の趣が湛ふやうに努めねばならぬ、伊勢大廟や、高野山に詣で、何んとも知れぬ有難さを覺えしむるものは、あの高野山道の神秘境五十餘川の清域であるやうに、村の神社の神々しさや、御寺の奥床しさも先づ其の參道の兩脇に空高く聳ゆる道並木から湧き出づることを記せねばならぬ。

最後に村の公園や見晴し臺に通する道路は娛樂のための道路であるから、其の道の兩側には、人の目を喜ばしむるべき草花類を植えるがよい。かの經濟道路たる作道や林道には草花の必要などは更にない、又教育道路や信仰道路に草花を仕立てば却つて、嚴事を損ふ氣味が無いでは無いが、娛樂道路の兩側に百花時を競ふ四季の花木を仕立て、甚だ好ましいことである、道に花を植ゆることを米國などでは農村美裝 Village Beautification と云ふて、村の道路を花園化することを獎勵して居る。

が、日本の農村に於ても少くとも村の娛樂道路を四季夫々の花木で飾ることは決して分に過ぎた贅澤な要求とは言はれない。

七

以上私は先づ日本の農村の道路を外村道と内村道とに分け、此小篇に於ては主として内村道のことに就て述ぶることにし、此内村道とは更に經濟道路、教育道路、信仰道路、娛樂道路に分け、是等の道路を夫々の用途に隨ふて或は便利本位に、又は啓發的に或は又嚴事を主として更に又或場合には道路を享樂本位に飾り道路に依つて農村住民の經濟生活と精神生活を向上發育せしむべき方法の一端を説いたが、複雑なる天然形態と生活様式とから成る農村の道路が必ずしも然かく判然と區別せられ居るとは思はれない、否、實際には外村道にして内村道たるあり又經濟道路たる作道や、林道にして非經濟道路たる教育道路や、信仰道路や、娛樂道路を兼ねる場合が多分をためて居るのであるが、併しも是等幾多の目的を混有する道路でも其の最主要なる村人の用途に従ふて、或は便利主義に關聯本位に又は瀟洒たる體裁に作り上ぐることは、日本の農民をして文化交流經濟通達の一大要素たる道路を善用せしむべき賢しき方法であらう。